

学生ボランティア活動の支援体制を整備



宮城県で被災児童生徒支援ボランティアに取り組む本学学生

本学学生によるボランティア活動は、大きく分けて、地域連携、一般ボランティア活動、学校サポート活動の3つの領域があります。その活動については、事務局の学術連携課、学生サービス課、教務課が窓口となっており、かねてから窓口とデータの一本化、効率的な運用が求められていました。

現在、本学はそれらのボランティア活動を一元的に集約した「全学ボランティア登録システム」の導入を進めています。学生自身はポートフォリオ化して就活における自己アピールの資料にするとともに、大学がすべての学生に情報を提供することができるようになり、活動の把握、学生支援等にも役立てることになります。

“ 体験をふりかえり 気づかせること ”

「帰る間際に泣いてくれて自分たちを必要と思ってくれたのだと感じ、本当に嬉しかった」——この言葉は、昨夏、東日本大震災の被災地・宮城県内の小中高校に学習支援ボランティアに派遣された学生が活動記録の中で記した感想の一部です。この学生は将来、中学校の英語教員になることをめざしています。「ボランティアは必ず自分の

ためになる」と、本学の呼びかけに積極的に応えた学生の一人です。また、養護教諭志望の学生は、「いつも明るくよく話してくれる元気な女の子が、実は震災でお母さんを亡くしたと知ったとき、とても心が痛みました」と心の揺れを感じ、「子どもたちに元気を与えたかったのに、自分が元気をもらいました」と締めくくっています。

「ボランティア活動体験では、ふりかえりと気づきを大切にしています。このコメントは、

その気づきがあったことの一端を現しています。学習支援者はこの“気づき”を受けとめ、さらに次へのプロセスへ導いていかなければなりません。これらの学生はボランティア活動で得た学びを自分のものとしており、将来いい教師になると確信しています」とは、本学教育学部教養学科人間科学講座で「いい汗かこうぜ! ボランティア」の授業を担当し、ボランティア活動を研究している新崎国広准教授(社会福祉士)の弁です。

東日本大震災のボランティア活動はこれだけではなく、個人レベルでがれき撤去などに参加している学生がいます。また講座レベルでは、特別支援教育専攻の学生、大学院生が中心となった「被災障がい者支援プロジェクト」(写真上)、第二部(小学校教員養成5年課程)の学生の自発的な支援活動「東北応援団」などが注目されています。

ボランティア活動は、“生きる力”などを育成、子どもの人間的成長を下から支える資質となります。“生きる力”、“人間力”と呼ばれ、OECDなどでは社会人として求められる資質「キー・コンピテンシー」(主要能力)と定義されています。文部科学省はボランティア活動・就業体験(インターンシップ)などを単位として認めるよう各大学に指導しています。地域連携活動をコーディネートしている關隆晴教授(教職教育研究センター)は「自発的に行うのがボランティア活動の本来のあり方なのですが、入口の段階で学生を活動に引きつけるきっかけになると思います。大切なのは、ふりかえりと気づかせる機会をつくること。そこで現れた気づきをどのようにフォローするのか、学習支援者の力量が問われます」と話します。

“ 多様な分野で 学生が活躍 ”

本学学生によるボランティア活動の歴史と範囲は幅広いものがあります。いくつかのボランティア活動を紹介してみると…

地域連携分野では、大阪府や柏原市との連携協定に基づく「森林体験学習」「キッズ・ベンチャー」(写真右下)「スタディー・アフター・スクール(SAS)」などがあります。

「学校サポート活動」では、1998年度から



特別支援教育専攻の学生、大学院生らによる東日本大震災被災障がい者支援プロジェクトで、岩手県田野畑村においてボランティア活動を展開(今年8月)

スタートした大阪府教委が実施する「まなびング・サポート事業」への協力、大阪市の学校支援ボランティア、関西圏内各市のスクールサポーター(パートナー)システムがあります。先日(10月3・4日)には柏原キャンパスで今年度2回目のガイダンスが開かれました。(写真右下 上段)

部活動・サークル分野でも、「点訳サークルまんてん」「聴覚障害学生と共に手話を学ぶ会」のほか、障害者支援ボランティアの児童養護施設介護グループ「武田塾」「誠組」「野郎会」などがあります。さらに、「共育系サークルReuniv」による学校ボランティア活動をはじめ、「シャッターアート制作」(写真左下)、音楽系、体育系、天文・理科サークルなどが、年間を通じて、地域連携活動として子どもたちを対象としたボランティア活動を幅広く実施しています。

“ 自分にあった ボランティア活動を ”

来年度、全学ボランティア登録システムが本格稼働することにより、本学学生によるボランティア活動がさらに飛躍することが期待されます。担当の野田文子副学長は「ボランティア活動は、他者への貢献という人間としての基本を学ぶ場であり、喜びを感じたり、学ぶことが多いと感じたりするのも、そうした本質的な資質を伸ばすことができるからではないでしょうか。学業とバランスを取りながら責任を果たすことも、これからの人生にはよい経験となるでしょう。自分にあったボランティア活動を見つけ積極的に参加してほしいと思います」と話しています。



地元・柏原市のオガタ通り商店街周辺で、シャッターアート制作のボランティア活動をする学生たち(11月)



学校サポート活動ガイダンス(10月)



キッズマートの取り組み(昨年12月)

「第二部を魅力のある 進路選択肢に」

夜間学部主事 田中 俊弥(たなか としや)



■「学生を大事にしたい。そのひと言に尽きます」。主事となって半年あまり、心境をこう語ります。「第二部(夜間学部)の学生は団結力があり、とてもパワフルです。そのエネルギーを第二部の活性化にどのように生かすのか、学生と日々語り合いながら模索しています」

■3年次編入をあわせもつ夜間の小学校教員養成5年課程があるのは全国で本学だけ。「学生一人ひとりが個性的な自分をキャリアデザインするメニューをたくさん用意し、受験生にとって魅力のある進路選択肢にしていきます」と力が入ります。

■広島大学教育学部教科教育学科(国語教育学)を1982年卒業。大学院博士課程に進んだ後、同学附属中・高等学校で教員として8年勤務しました。「広島高師附中」時代から国語教育の実践研究が脈々と受け継がれて、附属の教員時代は、毎月のように国語科の授業研究会に参加しました。「国語科授業と格闘し、鍛えられました」。その経験をベースに生まれたモットーが「実践に活路あり」。本学で後に立ち上げるようになった、大阪国語教育実践の会(JDC:じっせん、どうやねん、ちよっと)にも実を結びました。

■1993年、本学国語教育講座に講師と

して採用され、第二部の授業も担当。1996年から助教授、2001年からは第二部実践学校教育講座に移籍し、実践学校教育専攻の現職教員の院生指導にも携わりました。2007年から准教授、2009年から教授に。

■ライフワークの1つが、国分一太郎の国語教育論研究です。国分一太郎は作文(つづり方)教育の実践家・理論家として知られた人物です。「郷里の山形にフィールドワークで何度も訪ねました。それが縁で地元教育界の関係者とも親しくなり、複式学級の小学校で、音読や句会の授業を何度かさせていただきました」

■国語科教育研究の一領域でもある俳句では正岡子規の研究で著名な俳人の坪内稔典氏に指導を受け、俳句グループ「船団」に所属、船団で週刊ブックレビューを担当しています。「食」にも一家言をもち、料理の達人に手ほどきを受けているとか。「出汁の取り方、ぬか床の作り方、鯛の昆布じめも覚ええました」。かつては陶芸のロクロも回した多才ぶり。漢詩文が好きで、「風水」にも関心があって、水へのこだわりはかなりのもの。水への関心は、「山形の吟醸酒に行き着きました」と笑います。

■第二部の情報発信力を高めるために、webページのリニューアルを準備中。個人ブログ「国語科授業を考える」も立ち上げ、時々更新しています。「一度ご覧になり、感想をいただければ幸いです」

手をつないで vol.1

『男女共同参画社会』は誰のため？ 何のため？

2010年7月、本学に「男女共同参画推進会議企画専門部会」が設置され、2010年度にはガイドライン、2011年度にはアクションプランが策定されました。今年度から4カ年計画で、その実現に向けて動き始めています。アクションプランの中には、広報活動も含まれています。このたび、本学の取り組みを広く学内外に伝える広報活動の一環として、『天遊』にコラムを連載することになりました。

第1回は、「男女共同参画社会」は誰のためなのか？ 何のためなのか？ 改めて、どんな社会なのか、確認しておきましょう。わたしは『すべての人が大切にされる(すべての人を大切にする)社会』だと考えています。「わたし」と同様「あなた」も…すべての人が尊重され、個性や能力を活かして役割を果たせる社会です。

ですから、本来は名称に「男女」とつける必要はないのかもしれませんが。「男女」の表記は、とすると単純な二項対立的にとらえら

れがちですし、誤解を招く可能性も含んでいます。近年、他大学や自治体で行う取り組みの名称に「両立支援」といった表現が散見されるのも、そういった考え方が反映されているのかもしれませんが。

また、今年度は本学の取り組みをわかりやすくひと言で伝えるための、キャッチコピーを募集することになりました。多くの皆様からの応募を期待しています。一昨年ヒアリングのために訪問した熊本大学のキャッチコピーは「もう、あきらめなくていいんです」でした。人によって、場合によって、何をあきらめるのかは異なるでしょう。誰もが、働いたり、学んだりする上で支障になる「何か」があれば、それを取り除こうという意図が垣間見えますね。

次回以降、男女共同参画推進会議企画専門部会のメンバーがリレー方式で執筆を担当しますので、ご覧ください。

(部会長 鈴木 真由子)

紹介センター その1

教職教育 研究センター

本学には、大学の目的である教育研究等を専門的に担う組織として教職教育研究センターをはじめ保健センター、国際センター、情報処理センター、科学教育センター、キャリア支援センターの6学内センターと、全国共同利用施設である学校危機メンタルサポートセンターがあります。今号から、各センターをシリーズで紹介いたします。今回は、教職教育研究センターです。

(総務広報係)

人権教育を基盤に 新しい教育課題にこえて

センターの設立は1972年で、当時の名称は「同和教育研究センター」でした。「名は体を表す」の通り、当時、学校現場の大きな課題であった同和教育・人権教育を実践研究するセンターとなっていました。1988年には、学校現場での教育実践にかかわる新しい課題にこえるために「教育実践研究指導センター」に改組され、2000年には地域の教育課題と新しい時代の教員養成の課題に幅広くこえるため「教育実践総合センター」として充実を図りました。

本学には1999年に、生涯学習に関する教



育活動と研究を行う機関として「生涯学習教育研究センター」が設置されていました。2006年には両センターが統合し「教職教育研究開発センター」として発展改組されました。センター内には、人権教育、教育臨床、教育実習、地域連携、生涯学習支援の5部門を配置し、本学の横断的な課題や社会貢献の要請に応えることのできる総合的な機能を備えました。

2012年度からは「教職教育研究センター」に改称し、これまでの活動を発展的に継承しながら今日の教育ニーズにこえるため、大学と地域社会を結ぶ「教職開発部門」を新たに設置するなど、総合的な教職教育研究センターとして整備を行いました。その結果、現在のセンターには「人権・生活科教育」「教育実習」「教職開発」「地域連携」の4部門が置かれています。教職員は専任13人、兼務職員6人で構成。所員は、各部門に所属していますが、課題によって有機的に連携しています。

今年度、教員養成教育の新しいあり方、実践的指導力の育成という今日の教育課題にこえるためセンターの機構改革を実施したことについて、鳥善信センター長は「新しい「教職教育研究センター」に「教職開発」部門を創設したことに改革への意思を込めました。また、階層

格差が拡大し重い生活課題を抱える子どもが増加している現状のなか、教育の基盤としての教育課題はますます重くなっています。センターの沿革を継承し、本学及び地域の教育の推進に寄与するという視点を大事にしていく方針には微塵も変わりありません」と決意を述べています。

大学、教育委員会、 学校現場を結ぶ

「本学の横断的な課題や、社会貢献の要請にこえる」——この目標の達成に向け当センターはいま、大きく分けて2つの使命(ミッション)を有しています。

1つは、教員養成で「いい先生」を育て、学校現場に送り出すという使命です。教員養成での中心的な取り組みは教育実習です。これは学校現場の協力なしではやっていけず、それを支える教育委員会をつなぐ役割を担っています。当センターは、大学、教育委員会、学校現場の三者連携のコーディネート役です。

2つ目は、大学教員という資産を使った地域の教育活動への貢献です。学校や地域社会の教育力を高める様々な連携です。ここでも大学、教育委員会、学校を結ぶ役割を担い、現場(現職)教員の実践的指導力や資質の向上に貢献しています。具体的には研究授業のサポートや研修をコーディネートします。例えば要請に応じて、初任者、10年経験者、管理職等を対象とする研修などに直接かわり、大学教員を紹介・斡旋しています。また、本学の教員が、直接学校に出向いて校内研修(授業研究)を指導・助言をするなど学校支援活動も進めています。

地域貢献で忘れてならないのは、今年で4年目を迎えた教員免許状更新講習の実施で



教員免許状更新講習



● 島センター長



● 島崎教授



● 新坊教授



● 菱田准教授

す。大阪では毎年4000人から5000人の現職教員の受講申込みがあり、それに応える最大の機関として大阪教育大学は存在感を示しています。本学の教員の理解と協力のなか、更新講習実施委員会という全学組織のもとに推進していますが、運営については、専門委員長を引き受けるなど教職教育研究センターがその中心を担っています。

新しい「教職開発部門」 に大きな使命と期待が

今年度、新しく立ち上がった「教職開発部門」は、これからの教員養成、本学の教育の中身を育んでいく課題を有しています。その中には、1回生対象の教職入門セミナーがあります。また、平成25年度から導入される4回生対象の「教職実践演習」があります。実践的指導力のある教員養成の質保証という目的から導入されたもので、4年間の学びと実践力の基礎を最終的に確認・確保するものです。

本学では、全学的な議論のもとに、試行を重ねて今年で3年目となります。教科専門及び教職専門の両面で、幅広い実践的な演習メニューが企画され全国的にも質の高い内容に仕上がってきています。今後も当センターは、その運営と実施に積極的な役割を果たしていくことにしています。

近年、教員養成のカリキュラムに占める教育実習の比重が高まっており、本学でもその改

革充実が急ピッチで進められています。授業と学校現場の往還のなかで、実践力の向上に役立つ教育実習の具体化に向けて、求められている役割に応えようと所員をあげて奮闘中です。

「学校現場は、少子化、児童・生徒数の減少が進んでいます。“団塊の世代”の退職に伴う教員の大量採用はやがてピークを過ぎ、今後、採用枠は減少の一途。一方で、教員養成・採用・現職教員の力量形成の観点から、現職教員の各種研修ニーズは増加し続け、その課題にどう備えるかは本学にとっても今後ますます重要になります。この課題を視野において、『生涯にわたって学び続ける教師像の確立』をめざして当センターの将来像を構想する必要があります」と、島センター長は指摘します。

教育委員会との 交流人事を推進

地域の教育行政（教育委員会）は大学の力を求めています。そのため、本学は大阪府・大阪市との間で交流人事を行っています。新

しい「教職開発部門」には、大阪府教育委員会との交流人事で迎えた2年目の島崎英夫教授（高校）が担当しています。同教授は大阪府立高校3校で国語科の教員として勤務。教育委員会で「人権教育」「指導力不足等教員対策」「学校経営相談」などを担当しました。府立高等学校長を経て、再び教育委員会で高等学校課参事などを務めた後、2011年4月から交流人事で本学教授になりました。

また、今年度、教育委員会との交流人事でセンターに迎えた教員は2人います。1人は新坊昌弘教授（小学校）、もう1人は菱田準子准教授（中学校）です。

新坊教授は、枚方市内の公立小学校で勤務。大阪府教育センターで12年勤務。授業づくり・授業改善、学力向上、校内研究を推進しました。当センターでは教育実習等を担当しています。

菱田准教授は、大阪市立中学校で保健体育科の教員を務めました。大阪市教育センターで教員研修を担当。ピアサポートの研究を行い、悩み相談、グループ相談を推進しています。当センターでは、教育実習に不安を抱える学生をサポート等も担当しています。

詳細は、教職教育研究センターへ。

E-mail: renkei@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
(学術連携課 地域連携係)



現代教育セミナー

所属スタッフ

人権・生活科 教育部門	教 授	森 実
	准 教 授	佐 久 間 敦 史
教育実習部門	教 授	新 坊 昌 弘
	准 教 授	馬 野 範 雄
	准 教 授	菱 田 準 子
教職開発部門	教 授	島 崎 英 夫
	教 授	富 田 福 代
地域連携部門 〔 地域連携 教育臨床 生涯学習・社会教育 〕	センター長教授	島 善 信
	教 授	關 隆 晴
	教 授	澤 田 和 弘
	准 教 授	上 田 裕 美
	准 教 授	出 相 泰 裕
	特 任 教 授	安 福 純 子

「実験なら任せて」という教員育てたい



金剛生駒紀泉国定公園に位置する柏原キャンパスは、1992年に開校（統合移転）してから今年で20年を迎えます。四季折々、どの季節に訪れても花と緑に出会えるキャンパスをめざして、移転当初から計画的に緑化整備され、全国の国公立大学の中でも屈指の魅力を放っています。

移転直後から緑化整備を進めたのが当時の本学緑化委員会。岡崎准教授は、発足当初からのメンバーでした。「造成当時、国の環境アセスメント法が成立し追い風になりました。近鉄・関屋駅から山道を登り、通称“アバッチ砦”を越えてキャンパス予定地に辿り着いたことを思い出します。緑化委員会では若手として桜の木の苗植え作業をはじめ力仕事もやりました。いまの緑あふれる環境は当時の教員・職員の方々の汗と努力の結晶です。大切に保全していきたいと思っています」

専門分野は生物多様性の進化です。現在の研究課題は大きく分けて3つあります。1つは被子植物の性表現の研究、2つ目は絶滅危惧種の保全、3つ目は広域分布種を

用いた日本列島での種の分化や系統の研究です。

このうち、「性表現」は柏原キャンパス内に生育しているマルバアオダモ（丸葉青だも）の木が対象です。大阪教育大学が購入する直前の工事で裸地になったエリアにタネが入り込んで芽吹き、群落をつくったと考えられています。雌株と両性株という2タイプの株からなる性型を示します。「これは世界にも稀で、1%にも満たない珍しい性型です」。学内になんとも魅力的な研究対象があったものです。「どうしてそのような性表現が維持されているのか。20年かけて学生たちと一緒に観察、交配実験、DNAを使った遺伝的調査なども行いました」。研究成果を学会に発表したところ、高く評価されたそうです。

高知県生まれ。1981年信州大学理学部生物学科卒業。1987年京都大学大学院理学研究科植物学専攻博士前期課程。単位取得満期退学後、本学に採用。5年間の天王寺キャンパスを経て、94年から柏原キャンパスへ。

授業は生物学実験、生物学Ⅱ、進化生態学などを担当。最近は、小中高校時代に実験をしたことのない学生や、小学校の現職教員でも理科の実験が苦手という人が増えているといわれます。「学校現場は理論重視で実験軽視だと思います。手を汚し、手を動かして実験を経験してこそ理科教員です。本学は教員養成系大学ですから、4年の間に実験をしっかり実地で学ばせて、実験のことなら任せてというような人材を学校現場に送り出していきたい」と強調します。

アルバアオダモの花



大阪教育大学で生きる学生の「今」がわかる。

STUDENTS NOW!

将来はキャラクター・デザイナーに?

トランプカーストカード

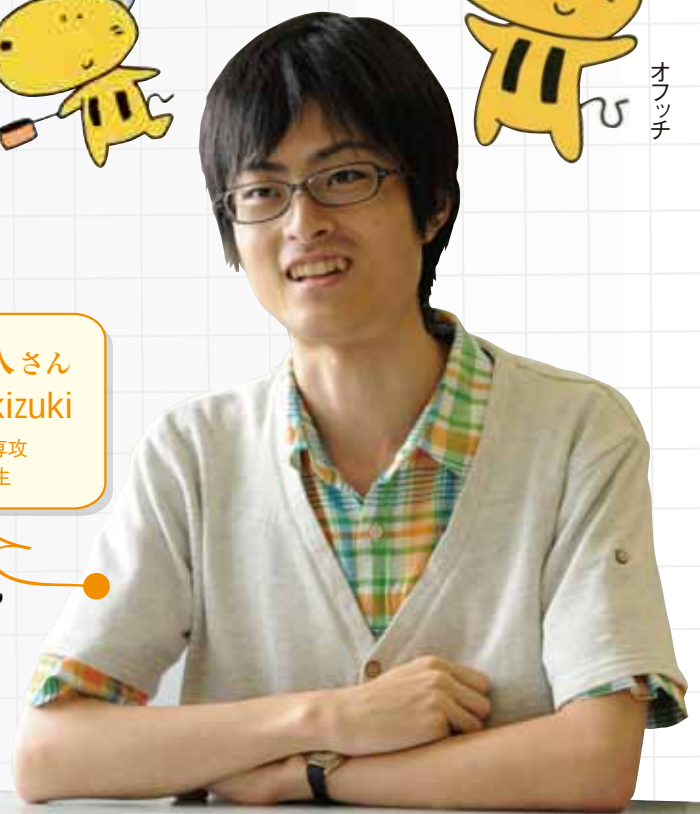


秋月 勇人さん
Hayato Akizuki

・教養学科芸術専攻
美術コース4回生



オフッチ



本学省エネルギーの夏季アクションプランの節電キャラクターとして採用された「オフッチ」のデザイン制作を手がけました。

「オフッチにパフォーマンスさせる省エネ推進ポスターも描かせていただきました。節電をできることからやっというのんびりやにするなど、結構楽しかったです」。ポスター「クーラーよりもクールビズ」は、省エネを強制するのではなく、その先に素晴らしいことが待っているというイメージを抱かせます。

「高3の進路を考える時期まで美術の道に進むとは考えていませんでした」。ただ、小さいときから絵本や図鑑を見るのは大好きだったと

いいます。「幼稚園の頃には動物や恐竜の絵を写し取って落書きして遊んでいました」

大阪教育大学の教養学科芸術専攻に美術コースがあることを父から教えてもらいました。入学して勉強が始まると、「油絵、彫刻の実技の他、美術に関する基礎知識の習得など、毎日が真剣で楽しく、しかも新鮮でした」

「1日に2体のキャラクターを生み出す」。そう心がけているそうです。身の周りのどのような素材でもモチーフにしてしまいます。例えば、「空き缶のつぶれた口が顔っぽい」「電車で向いに座った人のメガネが面白い」など、生き物だけではなく無機物にも目を向け、常に観察眼を働かせています。「構想を練りに練ってもアイデアが出ないこともありますし、ぱっとひらめくこともあります」

これまで生み出したキャラクターは「数え切れない」。代表作は「今日は何の日キャラ」や、「トランプ カーストカード」です。

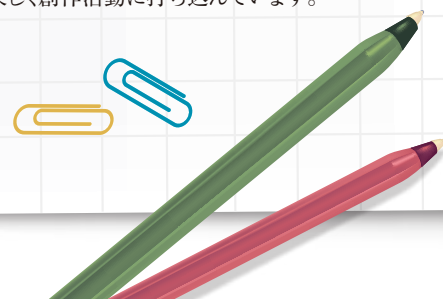
「トランプ」には1枚ごとに異なる56体のキャラクターが描かれています。先日、附属図書館地下1階の「たまごギャラリー」に展示したところ、「可愛い」「なんでこんなにたくさん生み出せる

の」など、学生から反響があったといいます。

現在力を入れているのが卒業制作です。110以上ある「化学元素」を素材に、これまで約60体のキャラクターを作りあげました。炭素(C)1つとっても黒炭からダイヤモンドまで様々な姿を変えます。「1つの元素の属性やイメージから、キャラクターを創作するプロセスは楽しい」といいます。「年内にはすべての元素のキャラクターづくりを制覇したいですね」と微笑みます。

最もキャラクターの多いアニメシリーズとしてギネスにも載っている「アンパンマン」が約2000といわれます。密かにそれを目標にしているようです。「ポートフォリオにまとめた自分のキャラクター群をながめていると楽しいし、幸せな気持ちになります」

「オフッチ」のように、マイペースでこつこつと楽しく創作活動に打ち込んでいます。



大阪教育大学で生きる学生の「今」がわかる。

STUDENTS NOW!

「“理科って面白い”と感じさせたい」



11月 大学祭



5月 オープンキャンパス



7月 NHKの番組で取材



9月 柏原市民総合フェスティバル



大阪教育大学
モダン科学館
川床 浩樹さん
Hiroki Kawatoko
●小学校教員養成課程4回生



大阪教育大学
モダン科学館
松田 奈々さん
Nana Matsuda
●小学校教員養成課程4回生

モダン科学館は、教育学部教員養成課程理科教育専攻の学部学生、大学院生らを中心に構成されています。メンバーは現在12人です。2人はプレゼンやアナウンスを主に担当しています。

子どもたちの理科嫌いが増えるなか、学校教育のなかで理科・科学現象に対する興味・関心をもってもらえるような体験が求められています。“理科嫌い”をなくす取り組みは学校現場の大きな課題です。

「理科教員をめざすわたしたちが、実験教材を手作りすることで、子どもたちに身近な自然現象について学んでもらい、理科好きの子どもたちを増やすことにつながると思うのです。同時に、活動を通じてわたしたち自身も教師としての力量が身に付いてくると思います」と、活動のねらいを端的に説明してくれたのが松田さんです。

五月祭（新入生歓迎行事）、7月オープンキャンパス、11月大学祭（神霜祭）、地域の商工会祭（柏原市民総合フェスティバル）、小・中・高校などを活動の場として、出前方式で科学館を開く活動をしています。平成17年の活動開始から8年で、開催は30回を超え、子どもたちを中心に延べ1万人が来場したそうです。これまで作った教材は60点近く、この中から、対象に合わせて15～20点を持参します。科学館では身近で簡単な現象から高校物理の範囲まで幅広く扱い、実際に物理教材を作ることのできる制作コーナーなども実施しています。また、地域貢献事業やボーイスカウトでの子ども科学教室にも参加しています。

川床さんは「全員が一丸となり、新しい教材の作製や改良、また説明の工夫をし、来ていただいた方々により楽しく、よりわかりやすく理科に親んでもらえるよう日々努力していま

す」。松田さんは「身の周りに起こる不思議な自然現象を、実験を通じて体験することにより、分からなかった謎が分かる嬉しさが醍醐味です。自分も感動した体験を子どもたちに味わわせてあげたり、分かったという時の嬉しそうな顔に接すると、わたしも嬉しくなります」と声を弾ませました。

プラズマボール、アルコールロケットなどが定番ですが、新しい実験教材をただいま試作中だといいます。それは、柏原キャンパスに放置してあった倒木を材料にした「太鼓」だそうです。「物理分野の『音』の学習に使う教材です。音階が出せるような工夫していますがなかなか難しいです。うまく音が出せたときの子どもたちの驚き、目の輝き、笑顔が待ち遠しいです」と二人は口を揃えました。

二人とも教員採用試験をクリアし、来春には教壇に立つ予定です。

大阪教育大学で生きる学生の「今」がわかる。

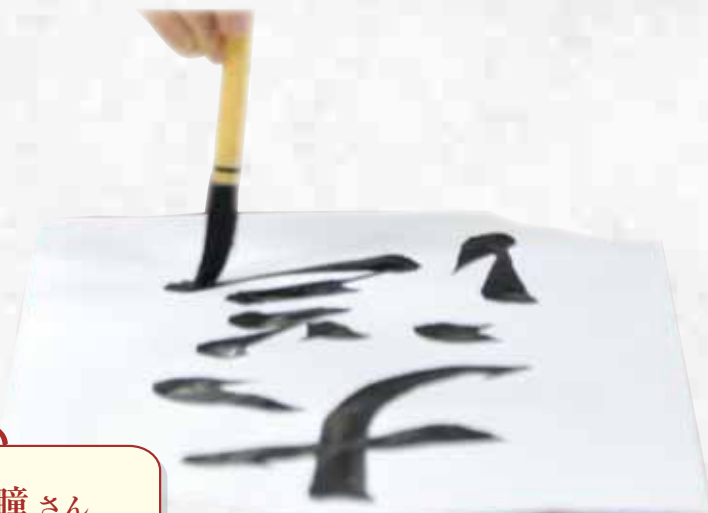
STUDENTS NOW!

「絶対、教師になりたい」



古田 瞳さん
Hitomi Furuta

●小学校教員養成課程
2回生(書道専攻)



憧れの先生と出逢ったのは小学校2年のときでした。「病気がちになり、欠席が多くなりました。クラスで浮いて、仲間はずれになりそうになったとき、ほめてもらい、励ましていただきました。将来、わたしもこういう大人になりたいと思いました」

小学校6年のときも素晴らしい担任でした。「一人ひとりに目を配り、家庭的にしんどい子どものそばに寄り添い、支えてくれる先生でした。これで教職志望が一気に高まりました。よし、わたしもしんどいときに子どもを手助けできるような教師になるぞって」。小6の恩師とは今でも年1回会ってご飯を食べています。「わたしの話に熱心に耳を傾け、アドバイスをもらっています。教職の道に進んだことをとても喜んでいただきました」

書道を選んだ理由については、「高校時代に習った書道の先生にほめられました。わたしが、教育大学に進みたいと言うと、入試には実技があるとおっしゃって、特訓をしていただきました。大阪教育大学に書道専攻があることを教えてくれたのも、その先生でした」。オープンキャンパスに参加して気持ちが定まったといいます。

教職実践力を現場に身を置いて身に付けたいと、1回生から「共育系サークルReuniv」に加入。授業の合間を縫って、地域の小・中学

校に学校ボランティアに出かけています。「講義で学んだ理論を、学校現場で実践する機会を与えてもらっています。サークルの先輩、学校現場の教員、校長先生からも教員採用試験のこと、学校現場のことなど、いろいろ教えていただいています。刺激になります」。常に積極的な姿勢が信条です。

メンバーからの信頼が集まり、10月からは「Reuniv」の代表を任されました。地域連携として、柏原市民総合フェスティバルで「スーパーボールすくい」のブース展示、小学校でバルーンアートのパフォーマンスも取り組んでいます。「教育実習の先輩による体験報告会も実施しています。いい先生になろうと誓い合う場でもあります」

「書道の道は奥が深いです。周りの先輩の高いレベルについていけなくて四苦八苦。まだまだ勉強しないといけないことが山のようにあります」。将来は子どもたちに書道の面白さを教えたいといいます。「書写は決まりが多くて堅苦しいイメージがあります。図工や音楽、体育ほど人気がないようですが、他の芸術と同じように自分を表現する営みです。小学生に“楽しい”“面白い”と言ってもらえるように、指導技術をさらに磨きたいです」ときっぱり。

趣味は、カラオケや映画鑑賞。「友達とわいわい言いながらの情報交換が一番楽しい時間です」と、さわやかな笑顔を向けてくれました。



卒業生 CATCH!

CATCH!

山本 真也さん
Shinya Yamamoto

- 44歳
- 教養学科人間科学専攻
発達人間福祉学コース1992年3月卒
- (株)NTTデータ勤務



ロンドン2012パラリンピック 競技大会にセーリングで出場

山 本さんは、国際パラリンピック委員会 (International Paralympic Committee、略称:IPC) が主催する身体障害者を対象とした世界最高峰のスポーツ競技大会であるロンドン2012パラリンピック(8月29日から9月9日まで開催)に、セーリング競技で出場しました。

セーリングとは、海上に設定されたスタートラインからマークを回航しフィニッシュラインまでのコースをいかに速く走るかを競います。「日本代表選手として出場し、世界のトップクラスの中で精

いっぱい戦うことができました」と感謝の言葉を語る山本さん。

出場した種目は、セーリング競技Three-Person Keelboat種目Sonarクラス、ロンドンから車で4時間ほど離れたWeymouth and PortlandのPortland Harborでレースが行われました。

2010年世界選手権(オランダ)と2011年世界選手権(イギリス)の予選を勝ち抜いた、日本を含めて14ヶ国のチームが出場し、9月1日から5日までの5日間で合計10レースを戦いまし

た。9月6日最終日のレースは風がなくて中止。日本チームの総合成績は、14ヶ国中最下位でした。

「悔しい結果に終わりましたが、世界のトップクラスの中で戦うことができて貴重な経験を得られました。世界のトップとの実力の差は大きいと感じましたが、決してトップに手が届かないとは思いませんでした」と山本さんはさわやかに語ります。

第6レースでは6レグのうちスタートから2レグを2位で快走。世界のトップクラスが日本艇を追いかけるというサプライズもありました。そのニュースは、[The Official IFDS Paralympic Sailing Competition Website](http://www.sailing.org/paralympics/london2012/home.php)

<<http://www.sailing.org/paralympics/london2012/home.php>>でも、

”Japan were surprise contenders in Race 6 rounding the second mark in second place but fell towards the end”
と紹介されました。

この第6レースのあと、各国の選手やコーチが”Good sailing!”と声をかけてくれたといいます。

「これまで世界の各国から相手にしてもらえなかった日本が、世界のトップクラスの選手やコーチから笑顔で声をかけてもらえるようになり、やっと世界の仲間入りができたように思います」

そのうえで、「今回のパラリンピック経験を活かして、今後も仕事と競技の両立を続けながら、世界のトップを目指します。多くの皆さまに応援してもらえるから、夢を諦めずに追い続けることができます。これからどうぞよろしくお願いします」と意欲的です。

詳細については下記webサイトをご覧ください。

【日本障害者セーリング協会
ロンドンパラリンピック
日本セーリングチーム日記】

< <http://homepage2.nifty.com/acharity-net/London2012%20%202.htm> >





会社の同僚と打合せ ヤマトホールディングス(株)本社



国際化を掲げる経営戦略の推進に
役に立てるよう成長していきたい

CATCH!

山本 淳奈さん

Junna Yamamoto

- 27歳
- 教養学科芸術専攻芸術コース
2009年3月卒
- ヤマトホールディングス(株)監査



留学先のウェスタンカロライナ大学で

「芸」

術学に興味があったのです。関西圏の国立大学には学ぶことのできる学科がなく、たまたま教養学科に芸術専攻があることをネットで見つけました。自由に研究できるということが気に入りました」

世界中の映画を見ることが好きになり、「高校時代にはすっかりはまりました」。見る本数が増えるにつれ、芸術学の視点から作品を捉えたいと思うようになりました。「制作手法から、ジェンダーなど、そこに描かれている人間関係や、政治や宗教など社会背景に関心が向くようになりました」

入学してみると、「芸術コースには刺激的な友人がたくさん集まっていた」。もまれるうちに、海外でもっと芸術学を学びたいと、高校時代からの夢だった留学を3回生の冬に決意しました。

すでに、就活は始まっていました。「ブランクになり就職に不利だよ」と忠告する友人もいましたが、「必ず自分のためになる」と4回生の8月に渡米しました。初めは周りとのコミュニケーションがうまくとれず、悩んだこともありました。「その折、留学

センター(現・国際センター)の先生方や職員の皆さまには親身に相談に乗っていただき、救われました」

「期待通りに刺激的な経験でした」。11か月の留学を終え、5回生の夏に再開した就活で旅行会社など何社か面接を受けましたが、ことごとく失敗。同級生はほとんどが内定を決めており、焦りを感じていた頃、留学経験者向けの合同説明会でヤマト運輸㈱に出逢いました。社員を「人財」と捉える企業理念に惹かれました。海外留学で語学を習得し現地経験を有するキャリアが採用担当者の目にとまり、内定を得ました。

入社1年目はヤマト運輸㈱の支店に配属されました。入社2年目の8月にヤマトグループの持ち株会社「ヤマトホールディングス㈱」(東京都中央区)に出向を命じられました。監査担当としてグループ企業や海外現地法人での適正な経理プロセスの指導、コンプライアンス(法令遵守)の徹底業務を担当しています。

昨年、海外留学をためらう日本人学生が増え、内向き傾向になっていることについて、「理解でき

ません。確かにお金もかかるし、就活にプラスになるとは限りませんが、自己投資によってそれ以上のものが必ず得られます」ときっぱり。

自身、留学から帰ってくると、周りの友人から「別人みたい」と評されました。「もともと引っ込み思案だったのですが、物事をはっきり言えるようになりました。外国人とのコミュニケーションでは曖昧はだめ。YES、NOをはっきり言わなければなりません」。知らず知らず度胸がついたようです。

グローバル化が進むなかヤマトグループも海外市場で宅急便ネットワークを拡大しています。「海外への事業拡大の基盤として、1919年創業のヤマトグループが日本で長年かけて積み上げてきた仕事の仕組み、サービス精神を現地に浸透させる必要があります。国際化を掲げる経営戦略の推進に役に立てるよう成長していきたい」と抱負を語ります。

趣味はやはり「映画」。健康法は「東京は公園が多く、ぼーっと過ごすのが好きです」。違う分野の職業に就いた同級生とはfacebookで交流、「時々会って、癒されています」

卒業生 CATCH!



CATCH!

富森 ゆみ子さん

Yumiko Tomimori

•教養学科人間科学専攻
生涯教育計画論コース1994年3月卒
•文部科学省初等中等教育局
幼児教育課子育て支援指導官



保育園の園児と給食

現場の声を聞くことを大切に



「図書館司書になりたくて大教を選びました」。平成2年4月に教養学科人間科学専攻生涯教育計画論コースに入学。最初の2年間は池田分校に通い、3回生からは、できたばかりの柏原キャンパスに通いました。「アクセスバスもエスカレーターもまだなく、駅からは毎日坂を上りました。辿り着いたとき、授業が休講になっていたことを知り、がっかりした思い出があります」と笑います。

3・4回生では、附属図書館長を務めた塩見昇元教授（現・名誉教授）のゼミに所属しました。

生涯教育実践研究の授業では、旅と学習を組み合わせた生涯学習活動団体「エルダー・ホステル協会」のスタッフや、夜間中学校で識字教育に取り組んでいる教員らを外部講師に招いて話をしてもらったといいます。「授業を通じて大阪市港区弁天町の生涯学習センターをはじめ府内の社会教育施設を頻繁にフィールドワークさせてもらいました。お陰で、生涯学習の素晴らしさを学び、公務員になろうと決意しました」

平成6年度に大阪大学に採用され、文部省官房総務課を経て、平成10年度から初等中等教育局で幼稚園から高等学校までの教育課程、教科書検定の仕事に12年間携わりました。22年9月に新潟県燕市に出向し、教育委員会教育次長を1年7か月務め、今年4月から現職に就いています。「生涯教育の担当をする機会はまだまだありませんが、行く先々で素晴らしい人たちと出会い、幅

広く教育行政に携わっています」

燕市では幼稚園・保育園の適正配置のために、市議会での答弁や、保護者や地域住民への説明を重ねたことが印象に残っているそうです。「痛感したのは、いろいろな人から直接話を聞かないと問題の核心をつかめない、折り合いを付けられないということです。機会を捉えて現場に足を運ぶように心がけています」。幼児教育をめぐるでは、教育の質の向上や幼保一体化への対応

が課題だといい、幼稚園関係者や保護者に説明をする機会もあるといいます。

後輩には、「大学時代は、自由な時間がいっぱいあります。いろいろなことにチャレンジして、その中での出逢いを大切にしてほしい」とアドバイス。

「経済不況で就活は大変だと思います。公務員も1つの選択肢。国の機関でもインターンシップを実施していますので、積極的にエントリーしてほしい」とエールを送ります。



全国国立幼稚園PTA大会・全国大会で講演



CATCH!

田中 公崇さん
Kimitaka Tanaka

- 32歳 教職9年目(現任教5年目)
- 教員養成課程小学校教育専攻
2004年3月卒
- 豊中市立寺内小学校教諭



子どもたちの未来の可能性を引き出す一助に

「子どもに接し、子どもの未来の可能性を引き出す手助けがしたい。そう強く思いました」。中学生のときにすでに教職への未来図が描かれていました。しかし、大阪教育大学にまっすぐのはずが、つまづいてしまいました。2年間の浪人生活です。

1年目の入試は「勉強不足でした」。予備校に通い、2年目に再チャレンジしたもの、「センター試験直前にインフルエンザにかかり、実力の半分も出せませんでした」。でも、大教志望はぶれなかったといいます。「孤独だし精神的にきつかったが、高校時代の仲間にも励まされました。猛烈に勉強と読書に打ち込み、いま思えばマイナス面よりプラスの方が多かったように思います」。挫折を乗り越え、精神的にもたくましくなったようです。

「子どもを木に例えると、大地にしっかりと根が張っていないといけません。そうすれば、幹も大きく育ちます。そんな小学校時代を教えている使命感、責任感を感じます」

「これからは心の教育が大切だ」と、初任の豊島北小学校で指導教員からの勧めで道徳教育の研究に取り組むようになりました。

広報担当者が取材で訪れた10月9日(火)、6時限に6年1組「道徳の学習」がありました。「のりづけされた詩」をテーマにした読み物資料の授業です。場面ごとに変わる、登場人物の心の揺れを考え、プリントに記入。その上でグループディスカッション、発表する流れです。

「どんな思いから先生に打ち明けようかと決心したのですか」「心のもやもやはどのようなものでしたか」など、田中教諭の発問に、子どもたちが次々と挙手します。ユニークだったのはグループの中で交流した後、全体で発言する友だちを推薦するという場面でした。子ども同士の認め合いを大切にしており、指名された児童は、誇らしげに発言していました。机間巡視で、支援を要する児童へのフォローも細やか。最後に、田中教諭が、小学校時代の心の弱さについて体験談を語りました。「テストで間違っていたのに丸がしてあったことを、担任の先生に言えなかった。先生も、もやもやと後悔したことがたくさんありました」とメッセージを送りました。「自分が感動したことを子どもに伝えることができ、同じように感動してくれたら嬉しいですね。道徳教育は心を耕すために大切だと思っています」

鈴木貴雄校長は「子どもを見る目が細やかです。校務分掌は今年度から生活指導を担当してもらっています。日頃はにこやかですが怒ると恐いらしいです。若手教員のリーダー的存在です」と信頼を寄せます。

大阪教育大学時代は、心理学の大日方重利ゼミに入り、不登校問題などを学びました。大阪市のメンタルリーダーのボランティアとして個別訪問などの活動に参加し、不登校でひきこもりの子どもや保護者からの相談を受ける活動を経験。「心に課題を抱えた子どもたちとどのように接したらいいのか、共に時間を過ごす中で学びました」

中学高校時代に熱中したサッカーを大学でも継続。「ゼミでもサークルでも一生の友人に恵まれました」。月1回はそういう友人たちとの「コミュニケーション」が楽しみだとか。教職をめざす後輩には「子どもが好き、先生への憧れだけでは、教師としてはやっていけません。誰とでも折り合いをつけることができるコミュニケーション力が求められています。わたしも多くの仲間と出逢い、先輩に支えられ、育ててもらいました。そのお陰で、なんとか教師をやっています」と笑います。



附属学校園ウォッチ

本学附属学校卒業の山中伸弥・京都大学教授が ノーベル賞生理学・医学賞を受賞



同校主催の公開セミナーで講演する山中教授(2011年6月)

本学附属天王寺中学校及び附属高等学校天王寺校舎を卒業された山中伸弥・京都大学教授が10月8日にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。

山中教授は1981年(昭和56年)3月に本学附属高等学校天王寺校舎を卒業しています。

2009年度に附属高等学校天王寺校舎が文部科学省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受けた際に、運営指導委員として同校のSSH事業に参加し、科学技術系人材の育成に尽力されています。

長尾学長は「山中先生が本学附属学校で学ばれたことは、附属学校生の誇りであり、先生のご活躍は彼らの希望となることでしょう。とても気さくなお人柄で、天王寺中・高の自由な校風の中で育まれたものではないかと思いました。今後さらなる研究を進展され、人々に大きな夢と希望を与えていただきたいと思います」とコメントしました。

岡 博昭副校長(附属高校天王寺校舎)の話

本校がSSHの指定を受け、理数教育の研究を重点的に行っている時期に、本校の卒業生が受賞されたということは、本校にとって大変大きな意味をもっています。今回の受賞は、SSHに関係している生徒だけでなく、本校の生徒全員にとって、大きな希望になると思います。山中先生のような研究者をめざす生徒が現れることを、心から期待します。

「附属幼稚園 120さい おめでとう！」

本学の附属幼稚園は明治25年に創立されて以来、多くの方々のご支援とご指導をいただきながら、お蔭をもちまして、創立120周年を迎えることができました。幼稚園では昨年度から、保護者の皆さんとともに、創立120周年記念事業の準備を進め、年内に徐々にお祝いの雰囲気をご提供してまいります。

子どもたちにとっても、「幼稚園の誕生日」は嬉しい出来事です。「幼稚園は120歳。すごいなー!」「お祝いしよう」と、気持ちが高まってきました。10月6日(土)青空の下で開催した運動会では、「ようちえん おめでとう」のプログラムを盛り込み、園庭の中央に登場した大きな2つのパースデーケーキに、年長児と年中児が仲良くロウソクや色とりどりのフルーツでデコレーションをしました。その間で、年少児が「ふぞくようちえん120さい」

の垂幕が入ったくす玉を割り、会場から大きな拍手がわきました。

さらに、保護者競技としても「くす玉割り」が行われ、くす玉の中から「お」「め」「で」「と」「う」の文字が現れ、子どもたちのつくったパースデーケーキと「ふぞくようちえん 120さい」のくす玉に、花を添えました。教員や来客の皆様もデコレーションに参加し、みんなで創立120周年を祝う楽しい一場面となりました。

11月1日は開学記念日を迎え、11月23日には記念式典・祝賀会を行います。これまでお力添えをいただいた皆様に感謝すると共に、子どもたちにとって大好きな附属幼稚園であり続けるよう努めていきたいと思っています。





読売教育賞に 数学科の竹歳教諭

附属天王寺中学校

本学附属天王寺中学校の竹歳賢一教諭(45)はこのほど、第61回読売教育賞の算数・数学教育部門に選ばれました。

テーマは「関数を使った備蓄計画」で、大阪の上町断層で地震が起きた場合を想定し、避難所となる学校に食料や水を備蓄するのにどのくらい費用がいるのかを、数学の関数を使って考える授業を行ったことが評価されました。避難所やニュースなどを生徒自身が考え、クラスで話し合って防災計画書をまとめさせました。

竹歳教諭は「授業で手軽に使える教材づくりにも取り組みたい。生徒には、授業をとおして数学がいろいろな場面で役立つことを実感してもらえないのではないか」と話しています。



国際化学オリンピックで 澁谷君が銀賞

附属高等学校天王寺校舎

各国の高校生らが参加した「第44回国際化学オリンピック」が、今夏、米国ワシントンで開かれ、本学附属高等学校天王寺校舎3年の澁谷亮太君(18)が銀メダルを受賞しました。

澁谷君は「今回、世界の同世代とつながりができたので、海外のメンバーとのコミュニケーションが重要だと思いました。有機化学や物理化学の分野に進路をめざしたい」と話しています。
(写真左が澁谷君、右は国内大会で銀賞を受賞した2年岡本浩一君)

本読者の声
【第2話・無駄】

「世の中には無駄なものが多い」「無駄な仕事をさせやがって」よく聞く台詞ですね。「親の小言となすびの花は千に一つの無駄がない」「無駄に見えても将来きっと役に立つ」などと諭され(半ば騙されて)、仕事をさせられたこともあります。

ところで「無駄」って何でしょう？

無駄を考えると、「時間」の概念が重要なポイントになります。今無駄に見えても将来役に立つものと、今役に立っても将来役に立たないものとは自ずと論点が違ってきますから。大学における身近な例では「サバティカル[※]」。今年度から本学でも導入された制度ですが、取得期間中は戦力ダウンでも、研究者や大学の将来にとってはとても重要な施策の一つです。多くの方々にご理解を頂きたいと思います。

また、事務局でも業務改善を進めています。「不要」な業務はなくとも、業務遂行上の「無駄」は必ずどこかに潜んでいるはず。大胆かつ丁寧に進めたいと思っています。

さて、世の中にはこの「無駄」をまじめに研究している人がいるんですね。今回ご紹介するのは、「渋滞学」「無駄学」(いずれも西成活裕著)です。著者はNPO法人日本国際ムダどり学会の会長でもあり、頭髮も無駄と剃ってしまう徹底ぶり。高速道路での渋滞のメカニズムの解明や、アリにも渋滞はあるのか・・・といったように渋滞の原因を突き詰めてゆく中で無駄の本質に迫ります。純粋に学術書なのですが、トヨタ方式による「ムダ」「むだ」「無駄」の違いや、無駄の反対語は？ といった疑問にも答えるなど、実生活モデルを駆使しているため「なるほど!」という感じで読み進める、ちょっと得した気分になれる本です。

(事務局長:若井祐次)

※研究休暇制度



附属図書館1階に設置されている「本読みのススメ」コーナー

〈キリトリ〉

天遊vol.23アンケート

●本号でよかった記事を下から選んでください。
(3つまで。その他は具体的にお書きください。
【 】 【 】 【 】
(その他)

- | | |
|---------------------|-------------|
| ①学生ボランティア活動の支援体制を整備 | ③手をつないで |
| ②ひと最前線 | ⑤ラボ訪問 |
| ④センター紹介 | ⑦卒業生 CATCH! |
| ⑥STUDENTS NOW! | ⑨本読みのススメ |
| ⑧附属学校園ウォッチ | |
| ⑩TOPICS | |

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。
()

●本誌をどこで手にされましたか。
()

●本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号『天遊』の送付を希望される方は記載をお願いします。
(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください

- ☐次号以降、毎号『天遊』を送付希望します。
☐今後『天遊』の送付を停止します。

ご住所 〒

お名前

お電話番号

※お預かりした個人情報(ハガキ)は広報誌「天遊」の送付以外には使用致しません。



01 市民対象のウインドオーケストラを初めて開催

本学「ウインドオーケストラ」(Wind Orchestra)演奏会が9月16日(日)柏原市内のリビエールホールで開催されました。市民を対象に公式の場で発表するのは初めてで、ホールの1階席をほぼ埋めるおよそ560人の市民らが鑑賞しました。

「ウインドオーケストラ」は、教養学科芸術専攻音楽コースに在籍している管打楽器専攻の学生・大学院生を主体に構成されています。今回、特別ゲストとして、和歌山大学の小寺香奈専任講師

をユーフォニアムのソリストに迎えて特別に編成され、55人のメンバーが演奏しました。

今回、曲目のコーディネーターや演出を神代修准教授が担当。曲目は、「アルヴァマー序曲」、「吹奏楽のための第2組曲(G.ホルスト)」、「ディズニー・メドレーⅡ」、「トランペット吹きの子守唄」などで、神代准教授がトランペット、小寺専任講師がソロ演奏を披露しました。最後にアンコールで、神代准教授と学生3人が「トランペットの休日」を共演しました。

演奏に聞き入った観客の1人は「市民フェスティバルにふさわしい、親しみやすい演奏内容でした。来年も実施してほしい」と話していました。

02 「平成24年度わが子の就職を考えるセミナー」を実施

本学キャリア支援センターが主催する「平成24年度 わが子の就職を考えるセミナー」(教育振興会後援)が9月23日(日)、柏原キャンパスで開催されました。これは、12月から始まる3回生の本格的な就職活動シーズンをにらんだ、今年で第3回目の取り組みで、約360人の保護者らが集まりました。景気の悪化により厳しい就職状

況と言われる中で、真剣な表情で説明に聞き入る姿があり、関心の高さを示しました。



読者の広場

小誌vol.21、vol.22を学生の保護者にも送付したところ、これまでアンケート葉書が80通あまり寄せられました。その中から幾つかの声を紹介します。(総務広報係)

.....
大教大でつながるいろいろな人々の熱い思いと、たゆまぬ努力がよくわかり、励まされました。(本学保護者)

.....
子供からは学校の話はほとんど聞けないので大学の取り組み、卒業生のアドバイスなどとても興味深く読ませて頂きました。(本学保護者)

.....
家から遠く離れている大学の事は、情報が届きにくくとても心配です。その為、このような広報誌を読ませて頂くととてもよくわかり安心します。(本学保護者)

近くに居住しているのですが一度も大学に行った事がありません。フェスティバルなど一般に開放されているのですね。機会があればのぞいてみたいと思っています。(柏原市民)

.....
H24年度就職が決まっていない人が全体の2割であり、非常に問題と思う。幅広い進路を考えるなら関々同立の方が良いのかも知れない。(その他 無記名)

.....
卒業生CATCH!は読むのがとても楽しみです。夢に向かってとてもイキイキして良いです。(本学保護者)

.....
保護者が大学に行かせて頂く機会がありませんので、学生の様子や卒業生等、楽しく読ませて頂きました。(本学保護者)

本誌にご意見をお寄せください。

今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊vol.23
webアンケート



「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋昌(山耀) 本学名誉教授によるものです。



本紙は再生紙を使用し、環境にやさしいベジタブルインキで印刷しています。この印刷物は、15,000部を701,500円で、すなわち1部46.7円で作成しました。



料金受取人払郵便

柏原局
承認

51

差出有効期間
平成25年5月
15日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学管理部

総務企画課 行

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他 () | | |